

ネットワーク (同時使用) ライセンス 管理者ガイド

次の説明は、IBM® SPSS® Amos™ 20 にネットワーク ライセンスを使用しているサイトの管理者向けです。このライセンスでは、任意の数のコンピュータに IBM SPSS Amos をインストールできます。ただし、アプリケーションを同時に実行できるユーザーの数は、ライセンスを購入したユーザーの数に制限されます。

始める前に

認証コードが必要になります。別紙に記載されている場合、または <http://www.ibm.com/software/getspss> から入手できる場合があります。この認証コードを使用して、Network License Manager 用のライセンスを取得できます。**Network License Manager** では、ネットワーク ライセンスが管理され、エンド ユーザーが IBM® SPSS® Amos™ を実行できるようにします。認証コードが見つからない場合は、営業担当者に連絡してください。

ネットワーク ライセンスが正しく設定されていることを確認するには、次の手順を実行します。

- ▶ **Network license manager をインストールします。**Network License Manager は、エンド ユーザーにネットワーク ライセンスを与えるユーティリティです。ネットワーク上のコンピュータにライセンス マネージャをインストールできます。これは、通常デスクトップ コンピュータが接続できるサーバーとなります。詳細は、[p. 2 Network License Manager のインストール](#) を参照してください。
- ▶ **製品にライセンスを許可します。**この操作により、ライセンスの許可に必要な情報が License Manager に提供されます。詳細は、[p. 6 製品のライセンス](#) を参照してください。
- ▶ **Network license manager をテストします。**ライセンス許可されていることを確認するためにライセンス マネージャをテストする必要があります。詳細は、[p. 10 ライセンス マネージャのテスト](#) を参照してください。
- ▶ **ローカルのデスクトップ コンピュータに IBM SPSS Amos をインストールします。**ユーザーまたはエンド ユーザーがデスクトップ コンピュータで完全インストールを実行します。インストール中に、エンド ユーザーはライセンス マネージャを実行しているコンピュータを指定します。エンド ユーザーが IBM SPSS Amos を起動しようとする、ライセンス マネージャに接続されライセンスが取得されます。ライセンスが利用可能になると、IBM SPSS Amos が起動します。詳細は、[p. 11 ローカル デスクトップ コンピュータへの製品のインストール](#) を参照してください。

インストールに必要な管理手順はありませんが、何か問題が発生した場合は、「[ネットワーク ライセンスの管理](#)」(p. 15) を参照してください。

ゴースト化

ソフトウェアをゴースト化 (イメージの複製) するには、ライセンス マネージャをインストールし、ゴースト化 (複製) イメージの作成に使用するローカルデスクトップに製品をインストールします。必要に応じて他のコンピュータもゴースト化します。

Citrix とターミナル サービス

Citrix Server またはターミナル サービス サーバー上で IBM® SPSS® Amos™ アプリケーションをインストールして公開する作業は、他の Windows アプリケーションの場合と同じ方法で実行できます。

Network License Manager のインストール

エンド ユーザーがデスクトップ コンピュータに IBM® SPSS® Amos™ をインストールする前に、Network License Manager をインストールする必要があります。このユーティリティは、継続して実行されるサービスまたはデーモンで、通常ネットワーク上の 1 台のコンピュータにインストールします。(リダンダント ライセンス マネージャを設定する場合、複数のコンピュータにインストールすることもできます。詳細は、「[リダンダント ライセンス サーバーの設定](#)」(p. 17) を参照してください。) デスクトップ コンピュータにはネットワーク ライセンス マネージャをインストールしません。

エンド ユーザーが、ネットワーク ライセンスが許可された IBM SPSS アプリケーションを起動するたびに、ライセンス マネージャからライセンスが要求されます。購入したライセンスによってソフトウェアを同時に使用できるエンド ユーザー数が決まっており、このユーティリティによってその数までのライセンスが各コンピュータに発行されます。ライセンス数が上限に達すると、それ以降のライセンス要求は拒否されます。エンド ユーザーが頻繁にライセンスを拒否されていることがわかったら、営業担当者に連絡し、ソフトウェアを同時に使用できるエンド ユーザー数をもっと多いライセンスを購入できます。

ライセンス マネージャは、別の DVD/CD にあります。eImage としてダウンロードすることもできます。

注： また、License Manager では、アクティブなエンド ユーザー セッションの数や各セッションに関する情報がログ ファイルに記録されます。このログ ファイルは、接続上の問題でトラブルシューティングを行う際に役立ちます。詳細は、[p. 16 ログ情報の取得](#) を参照してください。

複数のオペレーティング システム:

この network license manager が稼動しているプラットフォームは、クライアントが稼動しているプラットフォームと一致する必要はありません。たとえば、Linux のライセンス マネージャは、Windows のクライアントにライセンスを与えることができます。

ライセンス マネージャの管理

Windows のみに使用できるライセンス マネージャ ツールを使用して、ライセンス マネージャを管理します。そのため、ライセンス マネージャ ツールをインストールするために少なくとも 1 台の Windows マシンが必要です。

システム要件

Network License Manager をインストールするコンピュータは、次の要件を満たしている必要があります。

- 550Mhz 以上のプロセッサ
- 128MB 以上の RAM

重要: ライセンス サーバー上でファイアウォールを実行している場合は、UDP 用にポート 5093 を開く必要があります。そうしないと、クライアント コンピュータは License Manager からライセンスを取得できません。さらに、リダンダント (冗長) ライセンス サーバーを使用する場合、ライセンス サーバーが互いに通信できるように、UDP 用にポート 5099 を開ける必要があります。

License Manager のアップグレード

以前のバージョンの license Manager がインストールされている場合は、次の手順を実行する必要があります。

- ▶ 古い license Manager をインストールしたディレクトリに移動します。
- ▶ lservrc ファイルをコピーします。Windows では、winnt サブディレクトリの中を探してください。
- ▶ 安全な場所に lservrc ファイルを保存します。
- ▶ ユーザーがコンピュータ ライセンスをチェックアウトした場合、これらのユーザーがライセンスを再度チェックインするようにします。チェックアウトしたライセンスのリストの取得についての詳細は、「[コンピュータ ライセンスの設定](#)」(p. 19) を参照してください。
- ▶ ライセンス マネージャを終了します。 [詳細は、 p. 22 license manager の開始および停止 を参照してください。](#)
- ▶ 古いライセンス マネージャをアンインストールします。 [詳細は、 p. 23 License manager のアンインストール を参照してください。](#)
- ▶ 新しいライセンス マネージャをインストールします。Windows へのインストールの詳細は、「[Windows へのライセンス マネージャのインストール](#)」(p. 4) を参照してください。UNIX/Linux へのインストールの詳細は、「[UNIX/Linux へのライセンス マネージャのインストール](#)」(p. 5) を参照してください。Mac OS へのインストールの詳細は、「[Mac OS へのライセンス マネージャのインストール](#)」(p. 5) を参照してください。

- ▶ 保存された lservrc ファイルを、新しいライセンス マネージャをインストールした場所またはインストール ディレクトリの winnt サブディレクトリ (Windows の場合) にコピーします。Windows のデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。

コンカレント ライセンス ツールのインストール (すべてのプラットフォーム)

ライセンス マネージャやライセンス マネージャ ツールをインストールする前に、コンカレント ライセンス ツール インストーラを実行する必要があります。このインストーラは、ライセンス マネージャまたはライセンス マネージャ ツールのインストーラ ファイルをコンピュータにコピーします。インストール時、コピーするインストーラ ファイルを選択することができます。

コンカレント ライセンス ツール インストーラには、Java 1.5 以上が必要です。

- ▶ ライセンス マネージャまたはライセンス マネージャ ツールを実行するネットワークコンピュータの DVD/CD ドライブに DVD/CD を挿入します。オペレーティング システムのインストーラを検索し、DVD/CD から起動します。

または

- ▶ eImage ファイルをダウンロードする場合、WinZip などのアーカイブ ユーティリティを使用して、該当する eImage のすべてのファイルを解凍します。ご使用のオペレーティング システムのインストーラ ファイルを起動します。

注：コンカレント ライセンス ツール用に複数の eImages がある場合があります。それぞれライセンス マネージャ用、ライセンス マネージャ ツール用、ハードウェアキー ドライブ用です。各 eImage は指定のコンポーネント用のコンカレント ライセンス ツール、インストーラをインストールします。

- ▶ 画面に表示される指示に従います。インストール ディレクトリは必ずメモしてください。ライセンス マネージャまたはライセンス マネージャ ツールをインストールする場合、インストール プロセスが自動的に開始します。

Windows へのライセンス マネージャのインストール

注：Windows Vista または 7 では、管理者としてインストーラを起動する必要があります。インストーラ ファイルを起動するよう指示された場合、ファイルを右クリックして [管理者として実行] を選択します。

- ▶ コンカレント ライセンス ツールをインストールしていない場合、インストールして、プロンプトが表示されたら [Sentinel License Manager] を選択してください。 [詳細は、p. 4 コンカレント ライセンス ツールのインストール \(すべてのプラットフォーム\) を参照してください。](#)
- ▶ DVD/CD からコンカレント ライセンス ツールをインストールする場合、ライセンス マネージャのインストーラが自動的に起動します。インストーラが起動しなかった場合、またはインストールをキャンセルした場合、コンカレント ライセンス ツールのインストール ディレクトリの licensemanager ディレクトリを参照します。

- ▶ setup.exe を起動します。Windows Vista または 7 では、管理者としてインストーラを起動してください。
- ▶ 画面に表示される指示に従います。

UNIX/Linux へのライセンス マネージャのインストール

- ▶ コンカレント ライセンス ツールをインストールしていない場合、インストールして、プロンプトが表示されたら [Sentinel License Manager] を選択してください。 [詳細は、 p. 4 コンカレント ライセンス ツールのインストール \(すべてのプラットフォーム\) を参照してください。](#)
- ▶ コンカレント ライセンス ツールのインストール ディレクトリの licensemanager ディレクトリを参照します。
- ▶ ライセンス マネージャを Untar で展開します。
- ▶ Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールします。 [詳細は、 p. 5 ライセンス マネージャ ツールのインストール を参照してください。](#)
- ▶ License Manager の起動方法は、「[license manager の開始および停止](#)」 (p. 22) を参照してください。

Mac OS へのライセンス マネージャのインストール

- ▶ コンカレント ライセンス ツールをインストールしていない場合、インストールして、プロンプトが表示されたら [Sentinel License Manager] を選択してください。 [詳細は、 p. 4 コンカレント ライセンス ツールのインストール \(すべてのプラットフォーム\) を参照してください。](#)
- ▶ コンカレント ライセンス ツールのインストール ディレクトリの licensemanager ディレクトリを参照します。
- ▶ ライセンス マネージャの ZIP ファイルをダブルクリックしてファイルの内容を展開します。
- ▶ 展開したライセンス マネージャのインストーラをダブルクリックします。
- ▶ 画面に表示される指示に従います。
- ▶ Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールします。 [詳細は、 p. 5 ライセンス マネージャ ツールのインストール を参照してください。](#)
- ▶ License Manager の起動方法は、「[license manager の開始および停止](#)」 (p. 22) を参照してください。

ライセンス マネージャ ツールのインストール

Windows 専用のライセンス マネージャ ツールを使用して、ライセンス マネージャを管理します。オペレーティング システムに応じて、これらのツール手動でインストールする必要があります。

- **Windows** :ライセンス マネージャをインストールした同じマシンにライセンス マネージャ ツールをインストールできます。また、ライセンス マネージャをリモートで管理する場合、別の Windows コンピュータにインストールするオプションもあります。
 - **その他のオペレーティング システム**:Windows 以外のコンピュータにライセンス マネージャをインストールした場合、Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールする必要があります。
- ▶ コンカレント ライセンス ツールをインストールしていない場合、インストールして、プロンプトが表示されたら [ツール] を選択してください。 [詳細は、 p. 4 コンカレント ライセンス ツールのインストール \(すべてのプラットフォーム\) を参照してください。](#)
 - ▶ コンカレント ライセンス ツールのインストール ディレクトリの tools ディレクトリを参照します。
 - ▶ setup.exe を起動します。
 - ▶ 画面に表示される指示に従います。

製品のライセンス

Windows の製品本体部分のインストールの完了後、[終了] をクリックするとライセンス認証ウィザードが起動します。ライセンス認証ウィザードでは、IBM® SPSS® Amos™ のライセンスを取得できます。他のオペレーティング システムでは、ライセンス マネージャをインストールした後コマンド プロンプトからライセンスをインストールする必要があります。

今すぐライセンスを取得しない場合、一時的なトライアル ライセンスとなり、トライアル期間にわたり 制限されたユーザー数で IBM SPSS Amos を使用できます。-トライアル期間 (製品を最初に使用したときから開始) が終了すると、-IBM SPSS Amos は動作しなくなります。そのため、できるだけ早くライセンスを取得することをお勧めします。ライセンスを取得するか、一時的なトライアル ライセンスを有効にしないと、IBM SPSS Amos を使用することはできません。

注 : ライセンスは、ネットワーク コンピュータのロック コード付きハードウェアに関連付けられます。ネットワーク コンピュータまたはそのハードウェアを交換すると、新しいロック コードが与えられるため、販売担当者に連絡して新しい認証コードを取得する必要があります。

警告: ライセンスは時刻の変更を感知します。システムの日付や時刻を変更した後に製品を実行できなくなった場合、IBM Corp. テクニカル サポート <http://www.ibm.com/support> に連絡してください。

ライセンス認証ウィザードの使用 (Windows のみ)

ライセンス認証ウィザードを使用できるのは Windows だけです。異なるオペレーティング システムでライセンス マネージャの認証を行う必要がある場合、コマンド プロンプトからライセンス認証を行う必要があります。詳細は、[p. 7 コマンド プロンプトからのライセンスのインストール](#) を参照してください。

- ▶ インストール時にライセンス認証ウィザードを起動しない場合、またはライセンス取得前にライセンス認証ウィザードをキャンセルする場合、ライセンス マネージャ インストール ディレクトリにある `law.exe` を実行することによって起動できます。Windows Vista または 7 では、管理者としてインストーラを実行する必要があります。law.exe を右クリックし、**[管理者として実行]** をクリックします。
- ▶ ライセンス認証ウィザードが立ち上がったら、**[すぐ製品にライセンスを適用する]** を選択します。
- ▶ プロンプトが表示されたら、1 つまたは複数の認証コードを入力します。インストール メディアがある場合、認証コードはソフトウェアに付属する別紙、または DVD/CD ケースの内表紙に記載されています。管理者から認証コードを受け取っておく必要があります。

ライセンス認証ウィザードから、認証コードが IBM Corp. にインターネット経由で送信され、ライセンスを自動的に取得します。プロキシを設定している場合は、**[プロキシを設定]** をクリックし、適切な設定を入力してください。

認証プロセスが失敗すると、電子メールの送信を指示するダイアログ ボックスが表示されます。そして、デスクトップの電子メール プログラムを使って電子メールを送信するか Web ベースの電子メール アプリケーションを介して電子メールを送信するか選択します。

- デスクトップを選択した場合、適切な情報で新しいメッセージが自動的に作成されます。
- Web ベースのアプリケーションを選択した場合、まず Web ベースの電子メール プログラムで新しいメッセージを作成する必要があります。ライセンス認証ウィザードからメッセージ テキストをコピーし、電子メール アプリケーションに貼り付けます。

電子メール メッセージを送信すると、ライセンス認証ウィザードの確認メッセージが表示されます。電子メールは、即座に処理されます。**[ライセンス コードを入力]** をクリックして、受信したライセンス コードを入力します。すでにライセンス認証ウィザードを閉じている場合、ウィザードを再起動して **[今すぐ製品にライセンスを適用する]** を選択します。**[コードを入力]** パネルで、受け取ったライセンス コードを入力し、**[次へ]** をクリックしてプロセスを完了します。

コマンド プロンプトからのライセンスのインストール

コマンド プロンプトからインストールするには、2 つの方法があります。licenseactivator を使用するとインターネットから自動的にライセンスを取得でき、echoid を使用すると手動で取得できます。

licenseactivator を使用したライセンスの自動インストール

ライセンスをインストールするコンピュータはインターネットに接続している必要があります。接続していない場合は、ライセンスを手動でインストールしてください。[詳細は、 p. 9 ライセンスの手動インストール を参照してください。](#)

- ▶ License Manager をインストールしたユーザーとしてログインします。
- ▶ コマンド プロンプトを起動して、ライセンス マネージャのインストール ディレクトリに移動します。これは、ライセンス マネージャのインストール先ディレクトリで、IBM® SPSS® Amos™ のインストール先ディレクトリではありません。Windows のデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。
- ▶ **Windows のみ**: winnt サブディレクトリに移動します。
- ▶ 通常は認証コードを使用します。コマンド プロンプトで次のように入力します。これは、最も簡単な例です。コマンド プロンプトの使用の詳細は、この後の説明を参照してください。

licenseactivator <auth-code>

<auth-code> は認証コードです。

ライセンスが有効になったことを示すメッセージが表示されます。このメッセージが表示されない場合は、エラー コードを確認し、ライセンスを手動でインストールしてください。[詳細は、 p. 9 ライセンスの手動インストール を参照してください。](#)

licenseactivator を使用すると、製品ライセンスが有効になり、ディレクトリにログ ファイルが書き込まれます。ログ ファイル名は、licenseactivator_<month>_<day>_<year>.log です。エラーが発生した場合は、ログ ファイルで詳細を確認できます。この情報は、IBM Corp. に問い合わせをする際にも役立ちます。

認証コードを使った licenseactivator の使用方法。

licenseactivator は、通常、購入した製品に付属している 1 つ以上の認証コードとともに使用します。すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
licenseactivator authcode1[:authcode2:...:authcodeN] [PROXYHOST=proxy-hostname]  
[PROXYPORT=proxy-port-number] [PROXYUSER=proxy-userid] [PROXYPASS=proxy-password]
```

- 認証コードが複数ある場合はコロン (:) で区切ります。
- プロキシ設定は任意ですが、コンピュータがプロキシを設定している場合は設定が必要な場合があります。OS によって、必要なプロキシ設定が異なります。

Windows: プロキシ設定が機能するのは、コントロール パネルの [インターネット オプション] にある [ローカル エリア ネットワーク (LAN) の設定] で、特定の プロキシ サーバーのアドレスおよびポートが指定されている場合に限りです。コマンド ラインにプロキシ ホストおよびポートを入力しないでください。ただし、PROXYUSER および PROXYPASS に値を入力する必要があります。

その他のオペレーティング システム: その他のオペレーティング システムの場合、特定のプロキシ設定に応じて、コマンド ラインのすべてのプロキシ設定の入力が必要な場合があります。

ライセンス コードを使った licenseactivator の使用方法。

あまり一般的ではありませんが、IBM Corp. からすでに「ライセンス」を受けている場合もあります。

```
licenseactivator licensecode[:licensecode2:...:licensecodeN]
```

- ライセンス コードが複数ある場合はコロン (:) で区切ります。
- ライセンス コードを使用する場合、licenseactivator はインターネットに接続しないため、プロキシ情報を指定する必要はありません。

ライセンスの手動インストール

- ▶ License Manager をインストールしたユーザーとしてログインします。
- ▶ コマンド プロンプトを起動して、ライセンス マネージャのインストール ディレクトリ。これは、ライセンス マネージャのインストール先ディレクトリで、IBM® SPSS® Amos™ のインストール先ディレクトリではありません。Windows のデフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。
- ▶ **Windows のみ:** winnt サブディレクトリに移動します。
- ▶ サーバー コンピュータ用のロック コードを取得します。コマンド プロンプトで、「echoid」(その他のオペレーティング システム) と入力します。または「./echoid」(UNIX) と入力します。
- ▶ 当社にご連絡いただくか、spsscs@us.ibm.com にメールをお送りいただくことにより、ロック コードおよび認証コードを IBM Corp. にお送りください。IBM Corp. から、ライセンス コードまたはライセンス コードを含むファイルをお送りします。
- ▶ licenseactivator を使って、ライセンス コードを入力します。

トライアル ライセンスを有効にする

ライセンスをインストールしなかった場合は、IBM® SPSS® Amos™ の一時的なトライアル ライセンスをインストールできます。

- ▶ インストール メディアを使用する場合、DVD/CD が DVD/CD ドライブにあることを確認してください。eImage をダウンロードした場合、eImage のコンテンツを開くか、展開する必要があります。
- ▶ WlmAdmin アプリケーションを起動します。 [詳細は、 p.16 WlmAdmin アプリケーションの起動 を参照してください。](#)

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠で、[Subnet Servers] の隣にある + 記号をクリックします。ライセンス マネージャ サーバーが一覧表示されていない場合は、[Edit] メニューから [Defined Server List] を選択してコンピュータを指定します。
- ▶ ライセンス マネージャを実行しているネットワーク コンピュータの名前を右クリックして、次の項目を選択します。
[Add Feature] > [From a File] > [To Server and its File]

注： [To Server and its File] ではなく [To Server] を選択すると、トライアル ライセンス情報はメモリーに保存されます。ネットワーク コンピュータを再起動すると、この情報は消失します。
- ▶ [Open] ダイアログ ボックスで
「D:¥Windows¥Administration¥Licensing¥NetworkLicenseManager¥lservrc.temp」と入力します。ここでの D はインストール ディスク ドライブを示します。ディスク ドライブに D 以外のドライブを使用している場合は、適切なドライブ文字を入力してください。 eImage をダウンロードした場合、
<eImage>¥Administration¥Licensing¥NetworkLicenseManager¥lservrc.temp と入力します。
<eImage> は eImage ファイルを開いた、または展開した場所です。
- ▶ ライセンスが表示されたら、[OK] をクリックします。ライセンスの詳細を表示する方法は、「[ライセンスに関する詳細の表示](#)」 (p.17) を参照してください。

ライセンスの追加

後でライセンスを追加できます。ライセンスを追加するプロセスは、元のライセンスをインストールするプロセスと同じです。

ライセンスの表示

WlmAdmin アプリケーションでネットワーク ライセンス (ユーザー数を含む) を表示できます。WlmAdmin アプリケーションおよびライセンスの表示の詳細は、「[ネットワーク ライセンスの管理](#)」 (p.15) を参照してください。

ライセンス マネージャのテスト

ライセンス マネージャが適切に稼動していることを確認するために、ライセンス マネージャをテストする必要があります。

- ▶ 別のコンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールしていない場合、テストしたいライセンス マネージャが稼動して「いない」Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールしてください。詳細は、[p. 5 ライセンス マネージャ ツールのインストール](#) を参照してください。
- ▶ WlmAdmin アプリケーションを起動します。詳細は、[p.16 WlmAdmin アプリケーションの起動](#) を参照してください。
- ▶ テストするリモート ライセンス マネージャ サーバーを追加します。詳細は、[p.16 サーバーの追加](#) を参照してください。

- ▶ リモート サーバーのライセンスを表示します。 [詳細は、 p.17 ライセンスに関する詳細の表示 を参照してください。](#)

ライセンスを表示できる場合、ライセンス マネージャはローカル デスクトップ コンピュータと接続する準備ができています。ローカル デスクトップ コンピュータに製品をインストールできます。ライセンスが表示されない場合、前の手順を見直して、ライセンス マネージャが正しくインストールされていることを確認してください。

ローカル デスクトップ コンピュータへの製品のインストール

注： VPN を経由したネットワーク ライセンス マネージャへの接続は、正式にサポートされていません。

エンド ユーザーのコンピュータ (ローカル) に製品を完全にインストールするには、2 つの方法があります。各コンピュータに手動でインストールするか、Systems Management Server (SMS) のようなアプリケーションを使用して Windows が稼動しているコンピュータにインストールをプッシュできます。

ローカルのデスクトップに手動でインストールするには

- ▶ **インストール メディアを利用可能にする**：製品の eImage をダウンロードし、共有ネットワーク ドライブにファイルを解凍します。物理インストール メディアがある場合、DVD/CD のコピーを必要な部数作成するか、共有ネットワーク ドライブに置きます。
- ▶ **インストール手順書をコピーし、ライセンスに関する情報を準備する**。製品のインストール手順書のコピーを必要な部数作成します。インストール方法はダウンロードサイトから入手できます。またはインストール メディアがある場合、DVD/CD の /Documentation/<language>/InstallationDocuments ディレクトリにあります。ライセンスの種類に対応する指示に従います。完全バージョンまたは省略バージョンの指示を配布できます。サイト ライセンス用の認証コードを入力する必要があります。指示書をコピーする前に、指示書の初めにある空欄にこの情報を記入しておきます。
- ▶ **インストールに必要なものをエンド ユーザーに配布する**：インストール DVD/CD (またはダウンロード済みファイルまたはネットワーク上での CD-ROM の場所)、インストール手順書、およびライセンス情報を、各コンピュータに手動でインストールできるエンド ユーザーに必要なに応じて配布します。

Windows が稼動しているローカルのデスクトップにプッシュするには

IBM® SPSS® Amos™ のインストールは Microsoft Windows インストーラ (MSI) と互換性があるため、エンド ユーザーのコンピュータにインストールをプッシュできます。

Windows が稼動しているコンピュータへのインストールのプッシュ

インストールのプッシュは、ユーザーの介入なしにソフトウェアをあらゆる人数のエンド ユーザーに配布する手法です。IBM® SPSS® Amos™ の完全インストールをエンド ユーザーの Windows が稼動するデスクトップ コンピュータにプッシュできま

す。インストールのプッシュに使用するテクノロジーでは、MSI エンジン 3.0 以上がサポートされている必要があります。

以前のバージョンのアンインストール

以前のバージョンの IBM® SPSS® Amos™ のインストール先と同じディレクトリにプッシュする場合は、古いバージョンをアンインストールする必要があります。インストールをプッシュすると同様にアンインストールをプッシュできます。 [詳細は、p.15 アンインストールのプッシュ](#) を参照してください。

プッシュ インストールのプロパティ

プッシュ インストールに使用できるプロパティには、次のようなものがあります。すべてのプロパティは大文字小文字を区別します。値に空白文字が含まれている場合は、その値を引用符で囲む必要があります。

テーブル 1-1
プッシュ インストールのプロパティ

プロパティ	説明	有効値
INSTALLDIR	IBM® SPSS® Amos™ のインストール先となるエンド ユーザーのデスクトップ コンピュータ上のディレクトリ。このプロパティは省略可能です。指定がない場合、デフォルト値はC:\Program Files\IBM\SPSS\AMOS\19 になります。	C:\Amos などの有効なパス。
LICENSETYPE	ライセンスの種類。この値では大文字と小文字が区別されます。	Network
LSHOST	Network license manager を実行しているネットワーク コンピュータの IP アドレスまたは名前。	1 つ以上の有効な IP アドレスまたはネットワーク コンピュータ名。複数のアドレスまたは名前は、コロンで区切ります (例: server1:server2:server3)。
DISABLE_COMMUTE	エンド ユーザーのデスクトップ コンピュータでのコミュニタ ライセンス機能を無効にします。このプロパティが指定された場合、コミュニタ ライセンスのショートカットはデスクトップ コンピュータにインストールされません。コミュニタ ライセンスの詳細は、「 コミュニタ ライセンスの設定 」 (p.19) を参照してください。	1 (コミュニタ ライセンスを無効にする)。

プロパティ	説明	有効値
SPSS_COMMUTE_MAX_LIFE	エンド ユーザーがコンピュータライセンスをチェックアウトできる最大日数。詳細は、 p. 19 コミュータ ライセンスの設定 を参照してください。	1 から 30 までの数字。
COMPANYNAME	会社の名前。	任意の文字列。

MSI ファイル

Amos 19.0.msi ファイルは Windows¥Amos ディレクトリにあります (DVD/CD)。ソフトウェアをダウンロードした場合、MSI ファイルを使用するには、eImage のコンテンツを抽出する必要があります。

コマンド ラインの例

製品のインストールのプッシュに使用できるコマンド ラインの例を次に示します。すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
MsiExec.exe /i "Amos 19.0.msi" /qn /L*v logfile.txt
INSTALLDIR="C:\Amos" LICENSETYPE="Network" LSHOST="mylicserver"
```

SMS を使用したインストールのプッシュ

Systems Management Servers (SMS) を使用して IBM® SPSS® Amos™ をプッシュする際の基本手順は次のとおりです。

- ▶ DVD/CD の Windows¥Amos ディレクトリの該当するディレクトリをネットワーク コンピュータ上のディレクトリにコピーします。ソフトウェアをダウンロードした場合、eImage の内容を展開する必要があります。
- ▶ コピー先のディレクトリにある Amos 19.0.sms ファイルを編集します。テキスト エディタを使用して、CommandLine の値を適切なプロパティを追加することで編集します。利用可能なプロパティのリストは、「プッシュ インストールのプロパティ」 (p. 12) を参照してください。コマンド ラインで適切な MSI ファイルを指定してください。
- ▶ Amos 19.0.sms ファイルからパッケージを作成し、そのパッケージをエンド ユーザーのデスクトップ コンピュータに配布します。

グループ ポリシーまたは関連するテクノロジーを使用したインストールのプッシュ

グループ ポリシーまたは関連するテクノロジーを使用して IBM® SPSS® Amos™ をプッシュする際の基本手順は次のとおりです。

- ▶ DVD/CD の Windows¥Amos ディレクトリの該当するディレクトリをネットワーク コンピュータ上のディレクトリにコピーします。ソフトウェアをダウンロードした場合、eImage の内容を展開する必要があります。

- ▶ ORCA などのアプリケーションを使用して、コピーされたフォルダの下の適切な Amos 19.0.msi ファイルのプロパティ テーブルを編集します。ORCA は、Windows 2003 Server SDK に含まれています (<http://www.microsoft.com/downloads> へ移動し、「SDK」で検索してください)。プロパティ テーブルに追加できるプロパティのリストは、「プッシュ インストールのプロパティ」 (p.12) を参照してください。適切な MSI ファイルを使用してください。
- ▶ 編集した Amos 19.0.msi ファイルを使用してパッケージを作成し、そのパッケージをエンド ユーザーのデスクトップ コンピュータに配布します。

英語以外のシステムにインストールをプッシュする

追加の指定をせずに英語以外のシステムにプッシュできます。ただし、インストーラの言語 (インタラクティブ インストールをプッシュする場合) が英語で表示される場合、インターフェイスは英語で表示され、またヘルプも英語で表示されます。ユーザーはインストール後にユーザー インターフェイスの言語を変更できますが、ローカライズされたヘルプは使用できません。

TRANSFORMS プロパティを使用して、DVD/CD で使用できる MST ファイルのいずれかを指定できます。MST ファイルを使用して、インストーラ、ユーザー インターフェイス、およびヘルプを指定の言語で表示できます。IBM® SPSS® Amos™ をダウンロードした場合、MST ファイルは使用できません。ユーザーは、ローカライズされたヘルプの言語パックを手動でインストールし、製品のユーザー インターフェイス言語を手動で変更する必要があります。

TRANSFORMS プロパティは、MsiExec.exe のパラメータです。次の例では、TRANSFORMS プロパティを使用して、フランス語のインストールをプッシュします。インストーラがフランス語で、またユーザー インターフェイスもフランス語で表示され、フランス語のヘルプがインストールされます。(ヘルプ言語を HELPCHOICE プロパティで上書きすることもできます。詳細は、 p.12 プッシュ インストールのプロパティ を参照してください。) すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
MsiExec.exe /i "Amos 19.0.msi" /qn /L*v logfile.txt
INSTALLDIR="C:\Amos" LICENSETYPE="Network" LSHOST="mylicserver" TRANSFORMS=1036.mst
```

次の言語の MST は DVD/CD の Windows¥Amos ディレクトリにあります。eImage をダウンロードした場合、これらのファイルは展開した eImage ファイルの root に保存されます。

テーブル 1-2
言語の MST ファイル

言語	MST ファイル
英語	1033.mst
日本語	1041.mst

アンインストールのプッシュ

注： アンインストール コマンドをプッシュすると、エンド ユーザーがカスタマイズした設定は失われます。特定のユーザーがカスタマイズした設定を必要とする場合は、それらのユーザーを配布から除外して、製品を手動でインストールするよう指示できます。

新しいバージョンの IBM® SPSS® Amos™ のインストールをプッシュする場合、アンインストールを行う必要がある場合があります。このアンインストールは、次のコマンドをプッシュすることで自動的に行えます。すべてのテキストを 1 行に入力します。

```
MsiExec.exe /X{B132EFD2-BF03-48AA-8EC8-404E4C5199C5} /qn /L*v logfile.txt
ALLUSERS=1 REMOVE="ALL"
```

このコマンドは、IBM SPSS Amos 20 をアンインストールします。次の表には、本リリースおよび以前のリリースのアンインストール ID を示します。

テーブル 1-3
IBM SPSS Amos のアンインストール ID

バージョン	アンインストール ID
20.*	{58C50F5A-B7E2-4149-8911-B14CEC825F57}
19.*	{B132EFD2-BF03-48AA-8EC8-404E4C5199C5}
18.*	{65D9DA69-4C22-46CA-B762-A338CAC94599}
17.*	{9DB2E18E-2A1F-4D65-A258-9CB446903C3E}
16.*	{4DA782CB-C9A0-462F-9D18-17D301BC507C}

ネットワーク ライセンスの管理

ライセンス マネージャでネットワーク ライセンスを管理します。ライセンス マネージャ自体を管理し、保持しているネットワーク ライセンスに関する情報を表示するために、ライセンス マネージャ ツールの主要なユーザー インターフェイスである WlmAdmin アプリケーションを使用できます。ライセンス マネージャ ツールは、Windows のネットワーク ライセンス マネージャとともに自動的にインストールされます。Windows 以外のコンピュータまたはリモート Windows コンピュータでライセンス マネージャを管理している場合は、Windows コンピュータにライセンス マネージャ ツールをインストールしてください。詳細は、[p. 5 ライセンス マネージャ ツールのインストール](#) を参照してください。

注： 追加の管理情報が必要な場合、コンカレント ライセンス ツールとともにインストールされる SafeNet マニュアルを参照してください。マニュアルは、コンカレント ライセンス ツールのインストール ディレクトリの licensemanager/documentation ディレクトリにあります。

WlmAdmin アプリケーションの起動

ライセンス マネージャがインストールされている Windows コンピュータから起動する

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
[すべてのプログラム] > [Sentinel RMS License Manager] > [Sentinel RMS Server Administration]

ライセンス マネージャ ツールがインストールされている Windows コンピュータから起動する

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
[すべてのプログラム] > [Sentinel RMS Tools] > [Sentinel RMS License Server Administration]

サーバーの追加

ネットワーク ライセンス マネージャを管理する前に、WlmAdmin アプリケーションにサーバーを追加する必要があります。サーバーを追加するには、2 つの方法があります。

手動でサーバーを追加するには

- ▶ WlmAdmin アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
編集 > Defined Server List
- ▶ [Defined Server List] ダイアログで、ライセンス マネージャを実行しているサーバーの名前または IP アドレスを入力します。
- ▶ [追加] をクリックします。
- ▶ [OK] をクリックします。

サーバーが、WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠に [Defined Servers] リストが表示されます。

サブネットのサーバーのリストを表示するには

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠で、[Subnet Servers] の隣にある + 記号をクリックします。

サブネットのネットワーク ライセンス マネージャ サーバーのリストが表示されます。この方法で特定のサーバーが見つからない場合、上記のようにサーバーを手動で追加する必要があります。

ログ情報の取得

エンド ユーザーのライセンスの確認がうまくいかない場合、ログ ファイルに役立つ情報が含まれていることがあります。LSERVOPTS 環境変数と `-f <trace-log-file>` オプションおよび `-l <usage-log-file>` オプションを使用して、ログファイルを作成するよう指定することができます。この環境変数およびオプションの詳細については、コンカレント ライセンス ツールのインストール ディレクトリの

licensemanager/documentation ディレクトリの SafeNet マニュアルを参照してください。

ライセンスに関する詳細の表示

手動で、またはライセンス認証ウィザードを使用して追加したライセンスに関する詳細を表示できます。

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠で、ライセンス マネージャ サーバーの隣の + 記号をクリックし、ライセンスを表示します。
- ▶ ライセンスの名前をクリックします。右側のウィンドウに、ライセンスに関する詳細が表示されます。ライセンスを識別するためにコードが使用されています。コードの最初の部分は機能を示します。2 番目の部分はバージョンを示します。

機能コードに関連付けられた名前を確認するには

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、ライセンス マネージャまたはライセンス マネージャ ツールがインストールされているディレクトリに移動します。
- ▶ 「Imshowlic <server>」(Windows)または「./Imshowlic <server> (その他のオペレーティングシステム)」と入力します。<server> は、ライセンス マネージャを実行しているサーバーの名前または IP アドレスです。

サーバー上で使用可能なすべての機能の一覧が、製品別およびバージョン別に表示されます。

リダンダント ライセンス サーバーの設定

同じユーザー群をサポートする複数のリダンダント (冗長) ライセンス サーバーを設定できます。リダンダント サーバーにより、サービスがクラッシュしたときに発生する中断を防ぐことができます。1 台目のサーバーがクラッシュしても、別のリダンダント サーバーがライセンスの管理を引き継ぎます。

リダンダント (冗長) 機能を有効にするには、特殊な認証コードが必要です。ソフトウェアに付属する認証コードでは、冗長性が有効になりません。ソフトウェアに付属するコードをインストールすることにより、リダンダント (冗長) 機能を使用できなくなるため、注意してください。冗長性を有効にする場合は、下記の準備手順に従ってください。次に、カスタマ サービスに、電子メール (jpspsupt@jp.ibm.com) または電話 (03-5466-5620) で 9:00 から 17:00 の間に連絡してください。北米以外のお客様は、お近くのオフィスにお問い合わせください。

3 台以上で奇数台のライセンス サーバーがあり、かつその過半数が同時に動作している必要があります。たとえば、リダンダント ライセンス サーバーが 3 台ある場合は、うち 2 台が動作中である必要があります。

各リダンダント ライセンス サーバーを準備するには

- ▶ ライセンス マネージャをインストールします。 [詳細は、 p. 2 Network License Manager のインストール を参照してください。](#)

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、ライセンス マネージャをインストールしたディレクトリに移動します。
- ▶ 各サーバー コンピュータのロック コードを取得します。コマンド プロンプトで、「echoid」(Windows) または「./echoid」(他のオペレーティング システム) と入力します。
- ▶ ロック コードを控えておきます。カスタマ サポートまたはお近くのオフィスへのご連絡の際にこちらが必要になります。
- ▶ リダンダント ライセンス サーバーごとにこの手順を繰り返します。

リダンダント ライセンス サーバー プールを設定するには

- ▶ ライセンス マネージャがいずれかのリダンダント ライセンス サーバー上で実行されている場合は、各コンピュータの license manager 停止します。
- ▶ WlmAdmin アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
編集 > Redundant License File
WrlfTool アプリケーションが開きます。
- ▶ WrlfTool アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
ファイル > 新規作成(N)
- ▶ リダンダント ライセンス サーバーごとに [Add] をクリックして、各サーバーのホスト名と IP アドレスを指定します。
- ▶ リダンダント ライセンス サーバーが使用される順序になるようにサーバーの順序を変更します。リストの最初がプライマリ サーバーです。
- ▶ [Add License] をクリックして、カスタマ サービスまたはお近くのオフィスから受け取ったライセンスを追加します。複数のライセンスを受け取った場合には、必ずすべてを追加してください。
- ▶ [OK] をクリックします。
- ▶ 入力し終わったら、[Done] をクリックします。

リダンダント ライセンス ファイルを保存するには

- ▶ WrlfTool アプリケーション メニューから、次の項目を選択します。
ファイル > 名前を付けて保存
- ▶ リダンダント ライセンス ライセンス ファイル (lserverlrf) をアクセスしやすい場所に保存します。次の手順でファイルをコピーする必要があります。

リダンダント ライセンス サーバーを設定するには

- ▶ リダンダント ライセンス ファイル (lserverlrf) を Windows をライセンス マネージャのインストール ディレクトリの winnt サブフォルダにコピーします。デフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。その他のオペレーティング シ

ステムの場合、ファイルをライセンス マネージャのインストール ディレクトリに直接コピーします。3 台以上のリダンダント ライセンス サーバーが必要です。

- ▶ 各リダンダント ライセンス サーバーでライセンス マネージャを開始します。

エンド ユーザーのコンピュータを設定するには

エンドユーザーが製品をインストールするときは、コロンで区切られたサーバー名または IP アドレス (例: server1:server2:server3) ですべてのリダンダントサーバーを指定します。これにより、セットアップ プログラムはエンド ユーザーのコンピュータに必要な設定情報を追加します。すでに製品がデスクトップ コンピュータにインストールされている場合は、設定情報を追加するために次の手順を手動で実行してください。また、すべてのサーバーを定義する新しいインストールの後でアンインストールをプッシュすることもできます。プッシュ インストールの詳細は、「[Windows が稼動しているコンピュータへのインストールのプッシュ](#)」(p.11) を参照してください。

- ▶ テキスト エディタを使用して、デスクトップ コンピュータの製品インストール ディレクトリにある spssprod. inf を開きます。
- ▶ DAEMONHOST の行をコメントアウトします。次に例を示します。

```
#DAEMONHOST=server1
```
- ▶ spssprod. inf を保存します。
- ▶ LSHOST 環境変数を作成します。コロンで区切られたサーバー名または IP アドレス (例: server1:server2:server3) ですべてのリダンダント サーバーが含まれるようにこの変数を設定します。

コンピュータ ライセンスの設定

コンピュータ ライセンスを使用すると、エンド ユーザーはライセンス マネージャからライセンスをチェックアウトし、ネットワークに接続していないときでもライセンスを使用できるようになります。Windows の場合、コンピュータ ライセンスはデフォルトで有効化されて「いません」。その他のオペレーティング システムではデフォルトで有効化されています。コンピュータ ライセンスを実際にチェックアウトするための手順は、エンド ユーザーのインストール手順に記載されています。

社外からライセンス マネージャ サーバー経由でのアクセス用に有効にするライセンス数の割合を、制限することができます。すべてのライセンス (トークン) が外勤者に使用されてしまわないように、コンピュータ ライセンスを制限することをお勧めします。指定された割合のライセンスがコンピュータで使用された後、コンピュータ ライセンスの期限を過ぎるまで、またはチェック バックされない限り、ライセンスをこれ以上使用できません。エンド ユーザーがライセンスをチェックアウトできる最大期間を設定することもできます。デフォルトの最大期間は、7 日間です。

使用可能なコンピュータ ライセンス数の割合を設定するには

- ▶ ライセンス マネージャ サーバー上に LSERVOPTS 環境変数を作成します。この変数は Windows ではライセンス マネージャをインストールする過程で作成されま

す。そのため、Windows 以外のオペレーティング システムでのみこの作業を行う必要があります。

- ▶ LSERVOPTS 環境変数の値を編集して、「-com <percentage>」を含めます。<percentage> は社外で使用可能なライセンス数を示す 0~100 の数字です。0 を指定すると、コンピュータ ライセンスが無効になります。このスイッチはデフォルトで Windows に含まれていて、0 に設定されています。
- ▶ ライセンス マネージャを実行しているコンピュータを再起動します。

コンピュータ ライセンスの最大期間を設定するには

コンピュータ ライセンスをチェックアウトする時間の最大日数は、デスクトップ コンピュータの spssprod.inf ファイルの CommuterMaxLife 設定で指定されます。このファイルは、デスクトップ コンピュータの製品インストール ディレクトリにあります。spssprod.inf を開き、CommuterMaxLife を検索します。このオプションの値を、エンド ユーザーがコンピュータ ライセンスをチェックアウトできる最大日数に設定してください。これは 1 から 30この値は、インストールをプッシュするときにも設定できます。詳細は、[p.11 Windows が稼動しているコンピュータへのインストールのプッシュ](#) を参照してください。

注：この機能は時間単位ではなく日単位で作用します。たとえば、CommuterMaxLife オプションを 1 日に設定し、その後で午前 9 時にライセンスをチェックすると、そのライセンスは翌日の午前 0 時までチェックインされません。したがって、CommuterMaxLife が 1 日に設定されていても、ライセンスは実際には 39 時間保持されます。

コマンドラインからチェックアウトしたライセンスの一覧を表示するには

どのユーザーがライセンスをチェックアウトしたかを確認することができます。

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、ライセンス マネージャまたはライセンス マネージャ ツールがインストールされているディレクトリに移動します。
- ▶ 「lsmon <server>」(Windows)または「./lsmon <server> (その他のオペレーティング システム)」と入力します。<server> は、ライセンス マネージャを実行しているサーバーの名前または IP アドレスです。ローカル ホスト サーバーに対してのみチェックアウトしたライセンスを表示する場合は、ライセンス サーバー名を省略できます。

WlmAdmin アプリケーションからチェックアウトしたライセンスの一覧を表示するには

次のようにして、WlmAdmin アプリケーションでチェックアウトしたライセンスを表示することもできます。

- ▶ WlmAdmin アプリケーションの左側のウィンドウ枠で、ライセンス マネージャ サーバーの隣にある + 記号をクリックします。
- ▶ [Clients] の隣の [+] をクリックします。ネットワーク ライセンスを使用するクライアントが表示されます。クライアントが表示されない場合、ネットワーク ライセンスを使用するユーザーはいません。

- ▶ 特定のクライアントを選択して、クライアントがライセンスをチェックアウトしたかどうかを表示します。選択した後、右側のウィンドウ枠の [Detailed Information] エリアを確認します。

ライセンスリザベーション(予約)の設定

特定のユーザーまたはユーザーグループに予約するライセンス数を指定するファイルとして、リザベーションファイルを作成できます。各ユーザーは、ネットワーク ID またはコンピュータ名 (IP アドレスではない) で識別されます。たとえば、パワーユーザーのグループ用のライセンスを予約するためのリザベーションファイルなどを設定できます。これらのユーザーにはライセンスは常に使用可能です。また、予約を利用して、特定のユーザーをライセンスにアクセスできないようにも設定できます。

新しいリザベーションファイルを作成するには

- ▶ WlmAdmin アプリケーションメニューから、次の項目を選択します。
編集 > Reservation File
Wlsgmrg アプリケーションが開きます。
- ▶ Wlsgmrg アプリケーションメニューから、次の項目を選択します。
ファイル > 新規作成(N)

リザベーションファイルにライセンスとユーザーを追加するには

- ▶ Wlsgmrg アプリケーションメニューから、次の項目を選択します。
特徴 > 追加
- ▶ ウィザードの最初の画面で [Next] をクリックします。
- ▶ 予約対象のライセンスに関連付けられた機能コードを指定します。ライセンスに関連する機能コードの取得方法は、「[ライセンスに関する詳細の表示](#)」(p. 17) を参照してください。また、WlmAdmin アプリケーションに表示されるバージョン (160 など) を入力して、対象バージョンを規定することもできます。バージョンは必須です。キャパシティライセンスはサポートされていないため、[Capacity] コントロールは無視してください。
- ▶ [次へ] をクリックします。
- ▶ ユーザーグループの名前を指定します。名前は、任意に設定できますが、内容を表すようなものにしてください (「Sales」など)。
- ▶ グループに予約するライセンス数を指定します。グループメンバーは、依然としてすべてのライセンスにアクセスできますが、グループ外のユーザーには指定したライセンス数が使用できなくなります。たとえば、10 のライセンスがあって 5 つを予約すると、グループのメンバーには 10 のライセンスが使用できますが、他のユーザーには 5 つしか使用できません。
- ▶ [Members] ウィンドウで、[Add] をクリックして、グループに関連付けるユーザー名またはコンピュータ名を指定します (IP アドレスは使用しない)。ユーザーまた

はコンピュータがグループに含まれると、そのユーザーやコンピュータはリザベーション ライセンスを使用できるようになります。ユーザーまたはコンピュータがグループから外されると、そのユーザーやコンピュータはリザベーション ライセンスにまったくアクセスできなくなります。ユーザーやコンピュータを必要なだけ指定してください。なお、各グループは相互に排他的である必要があります。したがって、同じライセンスに関係する異なるグループには、互いに共通のユーザーやコンピュータを含めることはできません。

- ▶ すべてのユーザーがグループに追加されたら、[Finish] をクリックします。
- ▶ 必要に応じて、他のグループまたはライセンスを追加します。また、ライセンスまたはグループを右クリックし、[Properties] を選択して、ライセンスやグループの修正または削除が可能です。

リザベーション ファイルを保存するには

- ▶ リザベーション ファイルの定義を終了したら、メニューから次の項目を選択します。
ファイル > 名前を付けて保存
- ▶ ファイルをアクセスしやすい場所に保存します。次の手順でファイルをコピーする必要があります。
- ▶ ライセンス サーバーが起動時に、lsreserv ファイルを自動的に検出できるようにするには、ファイルを Windows のライセンス マネージャのインストール ディレクトリの winnt サブフォルダにコピーします。デフォルトの場所を受け入れた場合は、C:\Program Files\Common Files\SafeNet Sentinel\Sentinel RMS License Manager フォルダを確認してください。その他のオペレーティング システムの場合、ファイルをライセンス マネージャのインストール ディレクトリに直接コピーします。
- ▶ 同じ予約をすべてのリダンダント サーバーに適用する場合は、各サーバーにリザベーション ファイル (lsreserv) をコピーします。
- ▶ 終了したら、それぞれの license manager を再起動します。

license manager の開始および停止

License manager を起動する方法は、オペレーティング システムによって異なります。

Windows

Windows コンピュータの場合、ライセンス マネージャはシステム サービスです。デフォルトでは、サービスは自動的に開始されます。ただし、このサービスを手動で開始する必要がある場合は、次の手順を実行します。

- ▶ Windows のコントロール パネルで、[管理ツール] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] リストから「Sentinel RMS License Manager」を見つけます。

- ▶ そのサービスを右クリックし、[開始] または [停止] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

他のオペレーティング システムでは、ライセンス マネージャはデーモン サービスです。次の手順を完了して、サービスを手動で開始します。また、ライセンス マネージャが自動的に開始されるように設定することもできます (手順は次のとおり)。

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、ライセンス マネージャをインストールしたディレクトリを参照します。
- ▶ **起動。** root として、コマンド プロンプトで 「./lserv &」 と入力し、Enter キーを押します。
- ▶ **停止。** root として、コマンド プロンプトで 「./lsrdown <hostname>」 と入力します。ここでの 「<hostname>」 は、License Manager が実行されているコンピュータのネットワーク名です。次に Enter キーを押します。

License manager を自動的に開始されるように設定する

Windows

- ▶ Windows のコントロール パネルで、[管理ツール] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] をダブルクリックします。
- ▶ [サービス] リストから 「Sentinel RMS License Manager」 を見つけます。
- ▶ そのサービスを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- ▶ スタートアップの種類を [自動] に設定します。
- ▶ [OK] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

- ▶ オペレーティング システムの起動ファイルのいずれかに 「./lserv &」 を追加します。

License manager のアンインストール

Windows

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
設定 > コントロール パネル
- ▶ [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
- ▶ [Sentinel RMS License Manager] を選択し、[削除] をクリックします。
- ▶ ライセンス マネージャを削除するかどうかを尋ねるメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、license manager をインストールしたディレクトリを参照します。
- ▶ ライセンス マネージャを停止するには、コマンド プロンプトで「./lsrdown <hostname>」と入力します。 <hostname> は、ライセンス マネージャが実行されているコンピュータのネットワーク名です。次に Enter キーを押します。
- ▶ License manager がインストールされているディレクトリを削除します。

コンカレント ライセンス ツールのアンインストール

Windows

- ▶ Windows の [スタート] メニューから次の項目を選択します。
設定 > コントロール パネル
- ▶ [プログラムの追加と削除] をダブルクリックします。
- ▶ [IBM SPSS Concurrent Licensing Tools] を選択して [削除] をクリックします。
- ▶ コンカレント ライセンス ツールを削除するかどうかを尋ねるメッセージが表示された場合は、[はい] をクリックします。

その他のオペレーティング システム

- ▶ コンカレント ライセンス ツールがインストールされているディレクトリを削除します。

デスクトップ コンピュータのトラブルシューティング

エンド ユーザーのデスクトップ コンピュータの license manager で問題が発生した場合は、次の手順を実行します。

- ▶ lswhere を実行して、デスクトップ コンピュータで license manager を実行しているネットワーク コンピュータを検出できることを確認します。 [詳細は、p.25 lswhere の実行 を参照してください。](#)
- ▶ license manager サービスがネットワーク コンピュータで実行されていることを確認します。
- ▶ 適切な spssprod.inf ファイルを確認します。このファイルは、デスクトップ コンピュータの製品インストール ディレクトリにあります。spssprod.inf を開き、DAEMONHOST に、license manager を実行しているコンピュータの正しい名前または IP アドレスが設定されていることを確認してください。リダンダント サーバーを使用している場合、これは空にしてください。
- ▶ 複数のリダンダント サーバーを使用している場合は、LSHOST 環境変数でそれらのすべてを定義してください。それぞれの名前はコロン (:) で区切ります。たとえば、

ライセンス マネージャを実行しているコンピュータが SERVER1、SERVER2、および SERVER3 の場合、LSHOST は SERVER1:SERVER2:SERVER3 と設定します。

lswhere の実行

lswhere は、エンド ユーザーのデスクトップ コンピュータから実行でき、network license manager を実行しているコンピュータを確認できます。

- ▶ コマンド プロンプトを使用して、現在のディレクトリを IBM® SPSS® Amos™ のインストール ディレクトリに変更します。
- ▶ 「lswhere」と入力します。

エンド ユーザーのコンピュータに環境変数を定義する

エンド ユーザーのコンピュータに環境変数を定義する手順を次に示します。

Windows 2000/Windows XP/Windows 2003 で環境変数を定義するには

- ▶ Windows のコントロール パネルで、[システム] をダブルクリックします。
- ▶ [詳細設定] タブをクリックします。
- ▶ [環境変数] をクリックします。
- ▶ [システム環境変数] 領域で、[新規] をクリックします。
- ▶ [変数名] ボックスに、「LSHOST」と入力します。
- ▶ [変数値] ボックスに、network license manager を実行しているコンピュータの名前または IP アドレス（「myserver」または「204.171.64.2」など）を入力します。
- ▶ [OK] をクリックします。

サービスとサポート

IBM Corp. テクニカル サポートに連絡するには、<http://www.ibm.com/support> にアクセスしてケースを送信してください。IBM Corp. テクニカル サポートに登録していない場合は、登録が必要です。

IBM Corp. では、IBM Corp. 製品のトレーニング セミナーを定期的を開催しています。オンサイトでのトレーニング受講も可能です。トレーニング セミナーの詳細は、<http://www.ibm.com/training/spss> を参照してください。